

山本アツ子

「子どもたちと
同じ目線でいたい。
だから裸足で走った」

ATSUKO YAMAMOTO
1928-2021

川上小学校区にある「あいさつ通り」に何時しか
花が置かれるようになった。山本アツ子さんは
教員退職後、約30年前に花いっぱい運動を開始。
今日もまた、花は通学路を彩っている。
大人として、先生として。
子どもたちに真っ直ぐに関わってきた
山本さんの半生を、照射する。



2



1

月曜日の朝、川上小学校近くの
自宅の玄関を、山本アツ子さ
んは箒を手に残り葉を集めてい
た。庭先には土を入れたプラン
ターが並ぶ。「もうすぐチュウ
リップの球根を植えるんです」。
山本さんは、遠足の準備をする
ように楽しそうだ。

昭和3年6月4日生まれ93
歳。20歳は若く見えると驚くと
「みんなから言われる」とうなず
いて山本さんは笑った。「6月4
日は虫歯予防デーなのでみんな
覚えてくれます。自分の歯はも
う5本くらいしかありませんけ

ています」。

私たち大人は「子どものお手
本となるような言動を心掛ける
役割」をもつ。もしかしたら、
子どもに言うだけで自分ではでき
ていないのではないだろうか。
山本さんを見ると、急に背筋が
真っ直ぐになる。山本さんはい
つまでも「アツ子先生」だ。

**東温市子ども基本条例（9月24
日制定）**…子どもたちが主体と
なって自分も他者も大切にしながら
暮らせる社会が実現でき
ることを願う条例です。子育て、
教育の場面で、子どもの権利につ
いて市民全体で考える機会が
増えるよう取り組みます。条例は
市HPで読むことができます。

いと思いました」。

今年の9月24日、東温市では
子ども基本条例が制定された。
前文は「子どもは、その存在そ
のものが大いなる良さと可能性
を持つ宝であり、社会の希望の
光です。」から始まる。子どもを
取り巻く環境がより良くなるよ
う願いが込められた条例だ。

子ども基本条例は、子どもが
持つ4つの権利を定めている。
生きる権利、育つ権利、守られ
る権利、参加する権利。そして
大人の役割も定められている。
それは「子どもの権利を保障し、
主体性を育てる役割」だ。

「先生になってからは、『子ど
もたちに言うからには自分が
やってないとダメだ』と、運動

会では目一杯手をふり、裸
足で一緒に走っていました

ね。今でも背筋を伸ばして

歩くように気をつけていま

す」。師範学校を出て、昭和

21年から教員となった山

本さん。平成元年、60歳で

退職するまで、拝志小学校、

北吉井小学校、南吉井小

学校、川上小学校に赴任し

た。「裸足で走っていたから、
今でも元気なんでしょうか
ね」。山本さんはまた笑った。

いつまでも、
ATSUKO YAMAMOTO
アツ子先生。



山本 アツ子さん（93・町西）

profile

拝志小ー北吉井小ー南吉井小ー川上小
で教員を歴任。退職後は川上地区婦
人会で会長などを務める。約30年間
川内地区で花いっぱい運動を先導。

1_「手入れも少しだけで綺麗な花を咲かせてくれます」／2_上砂橋のあいさつ
通りにプランターを並べる／3_教員時代は開放して図書館代わりにしていた自
宅／4_「宝泉にある菜の花畑が綺麗なんですよ」。歩いて見に行くのが日課

れど」。冗談混じりにまた笑った。
山本さんが教師を目指した
きっかけは、自身が生徒だった
頃に遡る。

「2、3年生の頃担任だった平
松先生が大好きでした。あの頃
は実は鼻肩が多かったですけれ
ど、平松先生はどんな子でも分
け隔てなく接してくれました」。
当時、山本さんや周囲の子ども
たちは草刈りでもらったお駄賃
で学校に行っていた。集金袋の
書き方も自分でやるように勧め
られたという。「親に頼らず自分
でなんでもやれるようにと教え
てくれる先生が身近にいてくれ
たおかげです。生きていくため
に必要なことを教えてくれた平
松先生。そんな人に私もなりた

花は地域に彩りを与えてくれます
心を優しくしてくれますね